

平成16年9月22日  
水産庁

## 第2期北西太平洋鯨類捕獲調査（沖合調査）の終了及び調査船団の入港について

### 1. 沖合調査の終了と調査船団の入港

本年度の第2期北西太平洋鯨類捕獲調査（沖合調査分）は、9月18日をもって終了し、調査船団（調査団長：藤瀬良弘（財）日本鯨類研究所研究部長）が、以下のとおり入港します。なお、9月13日から実施している沿岸調査については継続中です。

- 調査母船「日新丸」（7,659ト） 遠山大介船長以下124名  
入港式：9月24日（金）午前11時00分 釧路市
- 目視採集船「勇新丸」（720ト） 小宮博幸船長以下21名
- 目視採集船「第一京丸」（812.08ト） 松坂潔船長以下23名  
入港式：9月24日（金）11時 下関市
- 目視採集船「第二勇新丸」（747ト） 亀井秀春船長以下19名  
入港式：9月23日（木） 広島県瀬戸田町

### 2. 調査結果概要

- (1) 調査期間：平成16年6月10日（出港）～9月24日（帰港）
- (2) 調査海域：三陸沖からカムチャッカ半島南方水域
- (3) 調査実施主体：財団法人 日本鯨類研究所
- (4) 本年沖合調査結果の概要：

昨年までの調査と同様に、ミンククジラは、サンマやスルメイカ、シマガツオ、シロザケ等の比較的大型の魚介類を、ニタリクジラは主にカタクチイワシやマサバを、イワシクジラはカタクチイワシやマサバといった魚類の他にカイアシ類などの動物プランクトンを広く利用していることが確認されました。

マッコウクジラでは、これまでの調査で情報の少なかった沖合域（9海区）で採集を実施した結果、ヒロビレイカやクラゲイカなどの中深層性イカ類を主に捕食していることが確認されました。

その他、シロナガスクジラ、ナガスクジラ、セミクジラ、ザトウクジラなどの大型鯨類を多数目視しました。

#### (参考)

鯨類捕獲調査は、国際捕鯨取締条約（IWC条約）第8条を根拠とし、日本国漁業法に基づく農林水産大臣の許可により実施されている。

問合先：水産庁遠洋課捕鯨班 諸貫、長友  
代表:03(3502)8111 内線 7242  
直通:03(3502)2443  
<http://www.jfa.maff.go.jp/whale/indexjp.htm>